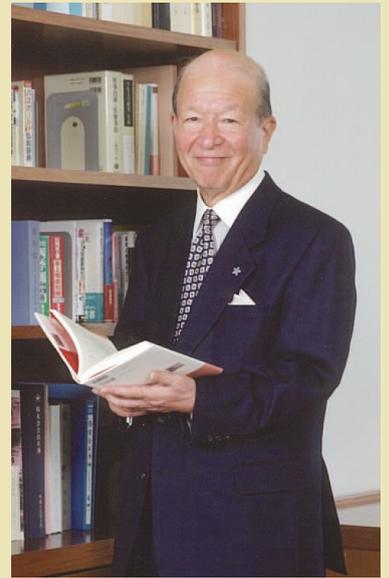


学習院大学  
国際交流センター  
Centre for International Exchange

# News Letter

## 英語を やろう



院長 波多野敬雄

私は30年と40年程昔バンコックとジャカルタに勤務したことがあります。当時は外務省以外は何処へ行くにも通訳を連れて行ったものです。何故なら当然のことながらバンコックでは皆タイ語、ジャカルタではインドネシア語を喋っていたからです。しかし今バンコックやジャカルタへ行くとほとんど通訳は必要ありません。役所でも会社でも幹部といわれる人達は皆英語を話すからです。ということは英語が話せない人は幹部になれないということです。幹部といわず課長にもなれない時が来つつあります。ASEANという地域協力機構が成熟した現在、東南アジアの人達はお互いに携帯電話で話しが出来る共通語が必要になってきました。そしてその共通語とは英語なのです。英語について云えば同様の現象は中国、韓国でもみられるようになってきました。勿論中国語、フランス語、ドイツ語等も大変なプラスですが、それでもある程度英語が出来た上のことです。

私は学習院女子大学の学長時代に英語コミュニケーション学科を新設しました。授業は全て英語、そして2年生は全員カナダへ留学します。カナダで英語の授業が一応理解できるようになるため、1年生は英語の勉強に専念します。この制度導入には当然反対論がありました。今の大学生に欠けているのは正しい日本語を話し書く能力であって、自国語さえ不十分な学生に外国語ばかり教えようというのは本末転倒というような反論です。私は、そう考える学生は何も英語コミュニケーション学科へ来なくてもよいでしょう、但しどの学科へ行っても英語は勉強しておきなさい、と云っていました。日本はアジアで（ということは世界で）モンゴルと並んで英語が通じにくい国と外国人から聞いたことがあります。「日本では高校からシェークスピアを読む」と反論しても相手にしてくれません。私は中国も日本以上に英語が通じないと思いますが、中国では日本よりも英語の必要性についての問題意識が浸透しています。優秀な学生はほとんど英語圏、特に米国への留学を希望します。ですからあと5年後には外国が接触する範囲においては、中国の英語の水準が日本より高くなっていると思います。

皆さん、英語を勉強しましょう。そして出来る限り留学しましょう。とりあえずは夏休みひと月でも外国へ行って出来ればホームステイを経験するのがよいと思います。それによってさほど英語は上達しないかもしれませんが、英語を勉強しなければならない、という意識が高まるでしょう。それが重要なのです。

vol. 18  
October 1, 2006

# A Week in Canberra

文学部哲学科3年 野出木 彩



■ ポッサム (野出木さん撮影)



月曜日。朝9時の翻訳の授業から私の一週間は始まります。このクラスでは、ネイティブスピーカーの学生とペアを組んで日⇄英の翻訳を行います。今日は「もののけ姫」の字幕翻訳にトライ。英語を学びながら、今まで気付かなかった日本語の魅力にも気付くことができる授業です。特に日本語から英作をする時は辞書と格闘しながらの作業ですが、ペアの学生に質問をしたりアドバイスをもらったりできるのでとても勉強になります!

火曜日はアートスクールの授業を取っています。実際に絵画や陶芸を制作するコースは履修できませんが、美学・美術史のレクチャー形式の授業は交換留学生でも履修可能です。私が取っているのは“Representing the Self”というコース。芸術作品とは自己表現の形態の一つであるという前提に立ち、作品とアイデンティティの関連性を考察する興味深い授業です。クラスメートは皆、日頃アートスクールで作品制作に励んでいる学生達。一緒に授業を受けているだけで刺激のもらえる個性的な人ばかりです!

水曜日の今日はヤンヤン、アレックス、マークとご飯。これが(左上の写真) Burton and Garran Hall (学生寮) 名物の大キッチンです! 500人分の食器棚、冷蔵庫、調理スペースがあります。ナショナルリティーごとに別れて机を囲んでしまう場合が多いのは確かですが、なるべくオージーや他国の留学生と座って食事中も英語を使うよう心がけています! 色々な国の料理も味見できて楽しい!

木曜日。今週も授業が一通り終了したので、放課後、友達の家でディナーを頂いてきました。自炊の寮だと気兼ねなく外食ができるのも良いところ。帰り道に、キャンパス内でポッサムに出会いました! こちらでは、日本の野良ネコのようにポッサムが歩き回っています。カメラを向けると動かずにじーっとこちらを見てくるから不思議です。かわいい!

金曜日。今日はアートスクールのDAY TRIPでシドニー・ビエンナーレを見てきました。キャンベラからはバスで片道4時間の長旅ですが、“世界一美しい港”と謳われるハーバーを前にした時には「来て良かった!」の一言。2年に一度開催されるビエンナーレ、今年はグローバルバージョンというコンセプトを中心に各国から集められた現代アートの数々が展示され、アジア・ヨーロッパ文化の融合が進むオーストラリアを象徴するような展示構成でした。ランチはクラスメートとハーバー沿いのお洒落なカフェで。充実した一日でした!

土曜日の今日は留学生主催のディナーパーティー、International Ballでした! テーマはマスカレード(仮面)。会場には様々なコスチューム

や伝統衣装を身にまとった500人以上の留学生が集まり、国際色豊かなANUらしい、賑やかで素敵な夜になりました。この日のベストドレッサー賞をGETしたイギリス人の留学生と写真を撮らせてもらいました。なんと3ヶ月かけて手作りしたのだとか! さすがにこのゴージャスさにはかたまりませんが、私もマスクとスカートを手作りしてみました。ディナー後は皆で街のクラブへ。小さな街キャンベラではシティに行けば必ず誰か友達に会います。皆週末はテンションも高くって面白い! さあ、今週末は良く遊んだので明日はしっかり切り替えて勉強です!

日曜日にもかかわらず、今日は図書館で明日からの授業の予習。ANUには各学部向けに図書館があり、パソコンの設備や自習スペースも充実しています。図書館の隣の並木に、梅の木が濃い桃色の花をつけていました。まだ朝晩は息が白いほど冷え込むキャンベラですが、暖かい日中は芝生に寝転がりながら教科書を読む学生もちらほら。冬の終わりを告げる小さな花びらや、昼間のぬるい風に、ふと顔もほころんでしまうけれど、それはここで過ごせる時間が短くなってきているという事でもあるんだなあと、少し複雑な気持ちになりました。残りのANU生活、沢山勉強して沢山楽しもうと改めて思う2学期です。



■ International Ballにて (真ん中が野出木さん)



## アッシメミリームハンマド

人文科学研究科日本語日本文学専攻 博士前期課程2年

サウジアラビアのオリジナルと自信をもって言えるのは「カブサ」と呼ばれる大皿料理です。何しろサウジアラビアは大家族が多いので、1皿あたりの大きさが半端でなく、大人2人で運ぶほどの量です。細長い米(インディカ米)をあさり味で炊き、その上にバーベキューまたは土の中で蒸し焼きにしたチキンやマトンが載って出てきます。全体的にはピラフに似た味がします。普通は鍋で作りますが、炊飯器でも簡単に作れるので、今回は是非その方法を紹介したいと思います。一人暮らしのアラブ人にはもってこいの調理法です。

### ●材料 (2人分)

- ・米 (できればインディカ米) ー 1 カップ
- ・鶏もも肉 ー 200g
- ・サラダ油 ー 1/4 カップ
- ・熱湯 ー 3 カップ
- ・タマネギ (薄切り) ー 1個(小)
- ・ニンニク (粗みじん切り) ー 2かけ
- ・トマトピューレ ー 50g (または トマト(さいの目切り) 1個)
- ・スパイスクローブ3粒、カルダモン3粒、シナモンスティック2本
- ・塩コショウ ー 適宜



今回は二本立てでお届けします。

まず、オーストラリア国立大学 (通称 ANU) へ留学中の野出木さんに、ANUで過ごす8月のある一週間を日記形式で紹介してもらいました。

憧れの留学生活。どんな毎日を送っているのでしょうか? 次に、この夏、国立ナポリ東洋大学への留学から帰国したばかりの草川さんに、イタリア留学の魅力について書いてもらいました。英語圏への留学とはまた違った魅力を感じていただければと思います。

# イタリアへ行こう!

法学部政治学科4年 草川 智愛



■友人の卒業パーティーにて

日本人が行きたい海外旅行先の上位に必ず入っているイタリア。世界遺産が多いから?食事がおいしいから?人が温かいから?約一年間住んだイタリアの魅力について、少し書いていきたいと思います。

最初に私の留学先ナポリについて紹介します。ナポリは、人口約100万人を抱えるカンパーニャ州の州都で、ローマ(約270万人)、ミラノ(約130万人)に次ぐ南イタリアの大都市です。「ピッツァ(ピザ)の発祥地」として世界的にも有名なほか、「オーソレミオ」や「フニクリフニクラ」などのナポリ民謡が数多く、私たち日本人にとっては馴染み深いところです。温暖な気候や明るく陽気なナポリ人(ナポレターノ)は、きっと日本人がイメージするイタリア・イタリア人像にもっとも近いのではないのでしょうか。

私を通ったナポリ東洋大学は、東洋研究においてヨーロッパ最古の歴史を誇る名門大学で、日本の言語・文学・政治においてもさまざまな研究がなされています。大学図書館には、日本語を勉強する学生のために、日本語の教材や小説、専門書などがそろっていました。そこで勉強していると、漢字の練習をしたり、日本語のテキストを難しそうな顔で見つめている学生を当たり前のように見かけます。「ヨーロッパの言語とはまったく異なる言語を勉強してみたかった。」という学生も多いですが、「小さい頃見ていた日本のアニメに影響を受けて日本に興味を持った。」という学生がとてとたくさんいました。ヨーロッパの中でも特に日本のアニメ文化が定着しているイタリアでは、テレビで日本のアニメを目にすることは日常茶飯事です。しかし、やはり日本語は難しいようで、卒業試験に辿り着かず日本語をやめてしまう学生も少なくありません。次にこの卒業試験について少し触れてみます。

イタリアの大学では卒業式と卒業試験が同じ日に行なわれます。各自、卒業論文のテーマについて指導教授のアドバイスを聞き、教授の許可

が得られると、年に何回か行われる卒業試験を受けることができます。卒業試験は一般公開で行なわれ、10人程の教授の前で、卒業論文について口頭で発表しなければなりません。発表を終えると教授達の質問が始まります。テーマや専攻した語学によっては外国語で質問に答えなければなりません。一日に数名の学生が卒業試験を受け、全ての学生の試験が終わると、教授達が卒業論文と発表の出来具合を審議し、卒業点数がその場で発表されます。点数が発表されると、緊張の解けた学生達は発泡性ワインをあけて、卒業試験を見守った友人、家族、親族らと祝杯をあげます。その後、友人を家に招いたり、居酒屋などを貸し切ったりして、卒業パーティーを盛大に行います。大学卒業は人生の大きな節目で、結婚式と同じくらい大切と考えている人もずいぶん多いようです。

イタリアへ発つ前、日本で手帳を真っ黒にして忙しい毎日を送っていた私は、イタリアに到着して余ほどの時間を手にした途端、その空白の時間を埋めたくて仕方ありませんでした。「忙しい=良いこと」と誤解していたのかもしれませんが。イタリアでの生活は日本での生活と比べると毎日が単調で、ある程度慣れてしまえば刺激に欠ける生活でした。しかし、多すぎるモノや情報に溢れて生活することが、必ずしも良いことではないと思います。イタリアにいる間、イタリア人の友達とピクニックに行ったり、家で一緒にご飯を食べてカードゲームをしたり、いつものたまり場で他愛のない話をしたり、彼らとそういう時間を共有できたことが私にとって一番幸せなことでした。お金をかけて得る喜びではなく、自然で素朴な喜びこそがかけがえのないものだったのではないかと、今改めて感じます。また、イタリアにいる間に「日本人のようにしないで。」という冗談を何回か言われたことがありました。菌に衣着せない彼らにとって、自分の意見や主張を述べることは当たり前のことです。自分の気持ちを言うのに恥ずかしいことなんてありません。相手が大丈夫というのに遠慮したり、お互いの気持ちを読み取るのが当然だと思ったりすると、彼らに思わぬ誤解を生みかねません。「郷に入ったら、郷に従え。」戸惑うこともありましたが、自分に正直にいればよいのです。実はすごくシンプルなことでした。

日本とイタリア。比較するとどちらの国にもその土地柄に合った魅力があり、一概に良し悪しをつけることが出来ません。私のこれからの目標は二つの国の架け橋になって、お互いの国の魅力を伝えていくことです。

イタリア留学なんてまだあまりピンと来る方は多くないかもしれません。しかし、もし興味があるのに踏み出せずにいるのなら、少しの勇気を持ってイタリアに挑んでください。

最後にイタリア留学の魅力をもう一つ。食事がおいしいので気をつけて下さい。特にナポリでは!!

## サウジアラビア編

# 世界の国からいただきます。



SAUDI ARABIA

### ●作り方

- 1) 米を洗って、5分以上水に浸しておく。
- 2) 鍋でタマネギをキツネ色になるまでサラダ油で炒める。
- 3) 2に鶏肉、トマトピューレ(またはトマト)、ニンニクを加えて弱火で5分程度炒める。
- 4) 3に熱湯、スパイス、塩コショウを加える。鶏肉に完全に火が通るまで20~25分程度煮込む。
- 5) 米を炊飯器に入れ、その上に鍋にある材料を加え、15分程度炊く。
- 6) 皿に炊き上がったご飯を盛り、その上に鶏肉を乗せて出来上がり。

サウジアラビアでは食事の前に、**الله بسم**(ビスマッラーヒ)と言うそうです。「アッラーフの御名において」という意味で、食事などを始める時に唱える言葉だそうです。

また「おいしい」は **لذيذ**(ラジーズ)。

「カブサ」は **لذيذ** でしたか?



■サッカー世界杯優勝のイタリア代表を友人と応援(左から2人目が草川さん)

## 2007年度 協定留学プログラム(第2期) 派遣学生募集中!

国際交流センターでは、2005年(平成17年)度より、派遣期間別に年2回、派遣学生の募集・選考を行っており、現在、2007年度第2期(派遣先:中国、アメリカ、ヨーロッパ等・留学期間:2007年10月~2008年9月)の出願を受け付けています。新たにポーランド大学(イタリア)への派遣学生の募集も開始しました。募集要項は国際交流センターで配布しています。多くの皆さんの出願をお待ちしています。

なお、2007年度第1期(派遣先:韓国、タイおよびオーストラリア、ニュージーランド・派遣期間:2007年4月~2008年3月)の募集はすでに終了しました。

2006年度協定留学プログラムによる派遣学生の皆さんは右のとおりです。

派遣先	派遣学生
オーストラリア国立大学	文学部哲学科3年 野出木 彩
ウェリントン・ヴィクトリア大学	経済学部経済学科4年 小松 奈緒美
復旦大学	文学部日本語日本文学科4年 飯田 香織 文学部心理学科2年 岩崎 恵梨
ノースカロライナ州立大学シャーロット校	文学部心理学科2年 中岡 舞
オックスフォード・ブルックス大学	文学部哲学科3年 酒井 千波 文学部英米文学科3年 三崎 望樹広
エディンバラ大学	法学部法学科3年 浅地 瑞保 文学部心理学科2年 竹國 沙妃子
バイロイト大学	文学部ドイツ文学科3年 斉藤 由香 文学部ドイツ文学科3年 ヘルマーカス マルゴ 蘭香
マンハイム大学	経済学部経営学科3年 石居 弘光

## 平成19年度学習院大学 海外留学奨学金の募集について

本学では、留学費用を援助し、できるだけ多くの皆さんが留学のチャンスを得ることができるよう、奨学金制度を設けています。平成18年度の募集はすでに終了しました。平成19年度第1回目の募集については、国際交流センターのHPでお知らせします。

応募条件: 教授会等で留学が許可されているか、もしくは海外の大学へ出願中の者

奨学金額: 1人50万円(給付)

募集人数: 15名(年間)

募集日程:

年度	募集時期(応募締切)	応募対象者
19年度	第1回(平成18年12月) 第2回(平成19年6月)	留学期間が①H19年4月~H20年3月 および②H19年10月~H20年9月の者

※ただし、留学期間が①の者は第1回に応募するのが望ましい。

平成18年度は以下の皆さんが奨学生に選ばれています。

法学部法学科4年	野間 ゆかり(中国)
“ 法学科3年	浅地 瑞保(イギリス)
“ 法学科2年	加藤 亜美(イギリス)
“ 政治学科4年	溝口 真理恵(イギリス)
経済学部経済学科4年	小松 奈緒美(ニュージーランド)
“ 経営学科2年	伊藤 純一(アメリカ)
文学部哲学科3年	酒井 千波(イギリス)
“ 哲学科3年	野出木 彩(オーストラリア)
“ ドイツ文学科3年	ヘルマーカス マルゴ 蘭香(ドイツ)
“ 心理学科2年	竹國 沙妃子(イギリス)
“ 心理学科2年	中岡 舞(アメリカ)
政治学研究科政治学専攻M2年	新井 千春(韓国)
“ 政治学専攻M2年	櫻井 彰子(中国)
人文科学研究科史学専攻D2年	放生 育王(中国)
“ イギリス文学専攻D2年	田部 夏樹(アイルランド)

( )内は留学先国

## 平成18年度大学院学生の 国外における研究発表援助について

本学では大学院学生の研究活動支援の一環として、海外で研究発表を行う学生に対し、10万円を限度に、費用の一部を援助する制度を設けています。平成18年度は、下記の通り援助を行いました(今年度の募集は終了しました)。平成19年度の募集については、来年4月頃、お知らせします。

平成18年度大学院学生国外研究発表援助採用者(18名)

研究科	専攻	所属	氏名
人文科学研究科	史学	博士後期	福島 恵
	哲学	博士後期	松島 仁 マホトカ ビエドツツカ エバ 岡本 麻美
	日本語	博士後期	魏 聖銓
	日本文学		熊 鷲 吉田 蒔子 吉田 美登利 伊藤 沙智子 札西 才謙 中丸 貴史
	イギリス文学	博士後期	井上 真理
自然科学研究科	化学	博士前期	高田 ゆかり
	物理学	博士後期	薩川 秀隆
		博士前期	安達 正芳 原田 史朗 青木 岳 鈴木 聖子

# News Letter vol.18

October 1, 2006

発行日/2006年10月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html

●編集後記● 2016年の夏季五輪の国内候補地が東京に決まりました。ただし、正式に開催地が決定するのは2009年10月だそうです。2008年に夏季オリンピックが開催される北京では英語学習がブームとか?東京五輪の開催は厳しいとの見方もありますが、もしかしたら、東京中に日本語のわからない外国人があふれる、なんていうことが起きるかもしれません。そんな時、さっと英語で助けてあげられたら素敵ですね。院長もおっしゃっています。「英語をやるう!」

### 【平成18年度国際交流センター運営委員】

所長	早坂 信	(外国語教育研究センター)
運営委員	MacGregor, Laura	(法学部・外国語教育研究センター)
“	Brown, Phillip	(経済学部・外国語教育研究センター)
“	田辺 千景	(文学部)
“	中島 匠一	(理学部)
“	有川 治男	(教務部長・文学部)
“	遠藤 久夫	(学生部長・経済学部)